

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年8月25日

【評価実施概要】

事業所番号	0970400750		
法人名	社会福祉法人報徳会		
事業所名	グループホームあゆ		
所在地	栃木県佐野市仙波町504-6 (電話) 0283-84-1588		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成20年7月25日	評価確定日	平成20年8月25日

【情報提供票より】(平成20年6月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年8月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	9人	常勤7人(うち兼務1人), 非常勤2人, 常勤換算7.5人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 1階建ての1階部分
------	-----------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	19,620円	その他の経費(月額)	・光熱水費—17,700円 ・共益費・日用品費—6,500円 ・理美容代、おむつ代—実費	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(30,000円)	有りの場合償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000円	

(4) 利用者の概要(平成20年6月30日現在)

利用者人数	9名	男性	名	女性	9名	
要介護1	1名		要介護2	1名		
要介護3	6名		要介護4	1名		
要介護5	名		要支援2	名		
年齢	平均	87.6歳	最低	80歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	長島医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会福祉法人報徳会は古くから特別養護老人ホームを開設し、最近ではデイサービスや居宅介護支援事業を地域に根ざして展開している。認知症の方で自宅での生活が困難な場合の第2の故郷として、「自分らしくゆつくりと、ゆとりのある暮らし」を理念として、平成17年8月「あゆ」が開設された。裏手には森のある自然豊かな環境で、木造の清潔感あふれるホームである。入居者一人ひとりが個性豊かに生活し、温かい職員の支援のもとで思い思いに暮らしている。職員手づくりの野菜を中心としたメニューの中に魚や肉を取り入れ、一人ひとりの好みに合った「食」の支援をし、食費の中から、外食や出前の費用も捻出する工夫もしている。個人記録等、個人情報に関わるファイルの氏名が見えないように職員手づくりの暖簾をさり気なく使っていることから、入居者のプライドやプライバシーに対する理解の深さをうかがうことができる。運営推進会議の開催、町内会のイベントへの参加や小学生との交流など、「1軒の家」として地域にとけこんでいこうとしているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	管理者が昨年の10月に交代し、引継ぎや業務の多忙から職員間で話し合う機会が少なく、具体的な改善の取り組みが少なかった。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価は副主任に相談し、職員からも意見を聞き管理者がまとめた。管理者・職員は外部評価を日々の振り返りの機会と捉えている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 最近では6月に開催している。メンバーは、入居者・家族・町内会会長・民生委員・地域包括支援センター管理者(市委託)・ケアマネジャー・管理者・職員で、入居者の状況・日々の様子・ケア水準の向上などを話し合った。今後、外部評価の結果も報告する予定である。2ヶ月に1回の開催予定であったが、今後は3ヶ月ごとの開催を考えている。外部評価の結果も報告し、意見をもらう予定である。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の訪問の際に日々の生活の様子や体調などを報告している。管理者は、手作りのイラスト入りで入居者の様子を手紙に書き、金銭出納報告とあわせて家族に毎月送っている。重要事項説明書にホームの苦情解決体制についてホームの担当者・第三者委員と行政機関の連絡先と方法が明記されている。ホームの玄関にアンケート用紙を置いているが使用されたことはない。6月の運営推進会議には4名の家族の参加があり意見が出された。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入し、まずは職員が清掃活動などから参加し、育成会を通して小学校の運動会の参加や地域の夏祭りに参加している。また、班の方が回覧板や広報を持って来てくれた時はお茶を出し、散歩の時には声をかけてもらっている。ホーム開設3年目を迎え、運営推進会議も開催され、地域に馴染んできた所である。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念「自分らしくゆっくりと、ゆとりのある暮らし」を、ホームの立ち上げ時に職員で考えた。わかりやすい言葉で、ホーム案内のパンフレットや玄関の掲示板にも掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、月1回の会議やカンファレンス時に、また日々のちょっとした時間を見つけながら職員間で話し合い、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、まずは職員が清掃活動などから参加し、育成会を通して小学校の運動会の参加や地域の夏祭りに参加している。また、班の方が回覧板や広報を持って来てくれた時はお茶を出し、散歩の時には声をかけてもらっている。ホーム開設3年目を迎え、運営推進会議も開催され、地域に馴染んできた所である。	○	ホーム開設3年目を迎え、運営推進会議も開催しながら「1軒の家」として、近隣の方たちと交流を深めていこうとしている。今後も地域との関わりを大切にしながら、継続的・計画的な取り組みをしていくことに期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は副主任に相談し、職員からも意見を聞き管理者がまとめた。管理者・職員は、外部評価を日々の振り返りの機会と捉えている。管理者が昨年10月に交代し、引継ぎや業務の多忙から職員間で話し合う機会が少なく、具体的な改善の取り組みが少なかった。	○	職員間で十分な話し合いを持ち、また全職員で自己評価に取り組んでみるなど、自己評価・外部評価についての周知を図ると共に各職員の気づきを活かし、ホームの良いところを共有したり、改善の必要なことについて出来ることから少しずつ取り組んでいくことを期待したい。

グループホームあゆ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	最近6月に開催している。メンバーは、入居者・家族・町内会会長・民生委員・地域包括支援センター管理者（市委託）・ケアマネジャー・管理者・職員で、入居者の状況・日々の様子・ケア水準の向上などを話し合った。今後、外部評価の結果も報告する予定である。情報提供票には2ヶ月に1回の開催と記してあるが、多忙により実施できなかった。	○	今後は定期的に3ヶ月に1回の開催を考えている。管理者・職員は会議でのアドバイスを受けて、対応の仕方などを真摯に受け止め、サービスの向上に活かしている。固定メンバーのほか、議題に合わせたメンバーの参加依頼も考えているので、例えば学校の先生・消防署や警察、市の担当職員などホームにとって必要な機関・人に参加をお願いしながら運営推進会議を充実していくことに期待したい。
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市とは開設以来、運営に関することや分からないことを相談している。市からも、法律に関する手紙や文書が送られ、対応も丁寧である。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問の際に日々の生活の様子や体調などを報告している。職員の担当制を取り入れているが、どの職員であっても家族に報告できるような情報の共有を徹底している。管理者は、手作りのイラスト入りで入居者の様子を手紙に書き、金銭出納報告とあわせて家族に毎月送っている。今後、各担当職員が手紙を書くことも検討している。職員の異動に関しては報告していない。	○	職員の交代がある時には入居者に説明をしているが、ホーム便りを年4回を発行していることを活かして、新しい職員の紹介などを掲載することを検討してみることに期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホームの苦情解決体制についてホームの担当者・第三者委員と行政機関の連絡先と方法が明記されている。ホームの玄関にアンケート用紙を置いているが使用されたことはない。6月の運営推進会議には4名の家族の参加があり意見が出された。家族会はない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来職員の異動・離職は4名で、入居者には説明をしている。異動・離職があった時には、後任の職員に早く馴染んでもらえるよう日々のケアを通して声かけなどをして努力しており、職員間でも協力し合っている。職員の採用に関しては、人あたりの良い人を採用している。		

グループホームあゆ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の内部研修会が年2回ほど開催され、救命救急などを勉強した。管理者は、月1回開催される主任会議に参加し、感染症や褥創の資料などをもらい、それをファイルして職員が各自勉強できるように工夫している。外部研修会は、個々の事情により受講が少ない現状であるが、外部研修の機会を活用したいと考えている。研修受講の報告はしているが、職員に直接伝達する機会はない。	○	管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたてるなど、全ての職員に学びの機会を作っていくことを期待したい。また、外部研修を受講した際に研修内容や成果を職員間で共有するための取り組みをしていくことにも期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者等の職員は、個人的に近隣のグループホームと連絡をとったり、実際に訪問しながらノウハウを教えてもらっている。県のグループホーム協会に入会しており、今後、研修などに参加したいと考えている。	○	付き合いのある近隣のホームとの関係を更に深めたり、近隣のみならず市内の同業者と勉強会、相互訪問の活動を通じてサービスの質を向上させていくための関係づくりを進めていくことにも期待したい。
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームに空きが生じた場合、市の社会福祉協議会や地域包括支援センターを通して紹介してもらい、利用中のデイサービスセンターなどに管理者が会いに行ったり、昼間に何回かホームに来てもらって馴染めるように配慮している。実際に入居してから落ち着くまで1ヶ月位かかっている現状がある。	○	本人が安心して、納得した上での入居となるように今後も細やかな対応をしていくことに期待したい。また、夕食を一緒にとったり、泊まってもらったりといった工夫も重ねながら、入居者が1日でも早くホームの生活に馴染めるような取り組みを充実させていくことにも期待したい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で、畑仕事や耳うどん作り、梅のつけ方など「おばあちゃんの知恵」を教わっている。入居者と職員は喜怒哀楽を共にしながら一緒に過ごしており、職員の声かけに対する入居者の「笑顔」がそれを物語っていた。書の得意な方にカレンダーの曜日や今年の干支を書いてもらい、玄関にある掲示板に掲げている。		

グループホームあゆ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントシートの情報や日々の生活の中から、入居者のできること、暮らし方の希望や意向を把握するようにしている。また、職員間でもその人らしく生活するとはどういうことかを常に考え支援している。困難な場合は、一人ひとりの行動から思いや意向を読み取り、声をかけながら支援している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、入居時に本人・家族と話し合いを持っている。日々の支援の中で職員の気づきや意見を聞き、主治医には往診時に病状を聞き、それらを元に管理者が介護計画を作成している。業務の多忙さやケアの充実を図るため、職員の計画への参加は保留している現状がある。	○	ケアマネジャーである管理者がほとんどの介護計画を作成している現状である。職員の担当制を取り入れていることも活かし、入居者のことを良く把握している職員が介護計画作成過程に参加することにも期待したい。また、日々の気づきを介護計画に反映し、介護計画が日々のケアに活かされるような取り組みにも期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は1年に1回見直しを行っているが、管理者は今後更に6ヶ月に1回は行っていきたいと考えている。入居者の状態等に変化が生じた場合は、家族や主治医と話し合い、現状に即した新たな介護計画を作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出・外泊時の迎えの時間の変更や食事の変更にも柔軟に対応している。また、希望があれば家族も一緒に食事をとれるように対応している。2月までは病院の送迎にも対応していたが、3月から往診を依頼しているので現在は行っていない。「帰宅願望」の強い方に家まで同行したこともあった。		

グループホームあゆ


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今年の3月から入居者・家族の了解のもと主治医を協力医療機関に変更し、毎月1回往診をしてもらっている。1名の方は家族の協力でかかりつけ医で受診している。協力医療機関の医師は24時間対応が可能であり、入院の必要が生じた場合は適切な医療機関を紹介してくれる。協力医療機関では歯科も受診できる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者が重度化した場合や終末期に対応していきたいと考えてはいるが、現状では職員数の問題や知識・技術面で勉強中であり対応は難しいと考えている。入居者の状態の変化を家族と相談しながら、転居先の相談にのっている。今後、本人・家族・職員・関係者と話し合いをしていきたいと考えている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライバシーを尊重して、居室に入る時にはノックをしたり、名前を呼ぶ際には「○○さん」と声をかけたりしている。相談室にある個人記録ファイルの置き場所には、名前が見えないように職員手づくりの暖簾をしてプライバシーに配慮している。個人記録には名前は記入せず、居室の名前（花の名前）を記入している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のその日の希望を聞き、必要によっては職員の休憩時間をずらしたりして1~2名の方とドライブをしたり、散歩・買い物に行ったりしている。訪問日には、談笑したり、カラオケを歌ったり、昼寝をしたりと入居者は一人ひとり思い思いに過ごされていた。共用空間で寛いでいる方が多かった。		

グループホームあゆ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	絹さやのスジとり、芋類の皮むき、テーブル拭きや後片付けを職員と一緒にしている。煮物が好きな方が多いので、野菜中心のメニューの中に魚や肉を取り入れている。訪問日はマグロの刺身であったが、生が苦手な方には煮付けにしたものに変えていた。前日の「土用の丑の日」のうなぎを食されている方もいた。職員は1名が必ず同じ物を一緒にとっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる体制はとっているが、週2~3回の方が多。午後を希望する方が多いが、午前中希望する方もおり、希望にそって支援している。入浴チェック表により声をかけているが、入浴を好まない入居者にはタイミングを図って誘ったり「サッパリしますよ」などと声をかけている。	○	入浴をより楽しむことができるよう、例えばその方の希望する入浴剤を使ったり、気のあった方と入ったり、気分を変えて日帰り温泉を利用したりするなど、一人ひとりの希望にそった工夫を加えていくことにも期待したい。
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時の生活歴などの情報や本人の希望から、一人ひとりが自分らしく過ごせるよう、野菜づくり・食事の準備・洗濯たたみ・掃除・裁縫・ぬり絵・書・カラオケなど、役割や気晴らしの支援をしている。また、書の得意な方にカレンダーの曜日や今年の干支を書いてもらい、玄関にある掲示板に掲げている。		
25	61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの中だけで過ごさずに、一人ひとりの希望にそって戸外に出かけられるよう、時には誘ったりしながら支援しているが、出かける方は限定されている。部屋から庭に出る場所には段差があり、玄関のスロープも角度が急であり、ブロック塀を出るとダンパーの往來の多い道路になっている。	○	入居者が自ら動ききっかけづくりを工夫したり、ボランティアや家族の協力のもと、戸外に出かけられるような仕組み作りの検討を期待したい。法人として敷地内の安全を考慮しているが、例えば段差を解消して敷地内を散歩できるようにするなど環境づくりをする検討にも期待したい。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全ての職員は日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しているが、前記の危険な状況から、二重になっている玄関の自動ドアのうち、ホーム側の内側はロックされている状態である。「帰宅願望」の強い方には、思いをくみ取り一緒に歩くこともあるが、少ない職員で対応が難しい現実もあり、家族と相談している。	○	入居者の安全を考慮し、また家族の安心のために鍵をかけている。環境を整備したり、近隣の方や交番の協力も得ながら、安全・安心に配慮しつつ鍵をかけないケアを目指していくことに期待したい。

グループホームあゆ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回はホーム独自で避難訓練を実施している。町内の方には、ホームに9名の高齢者が入居していることを伝えている。町内に住んでいる法人の職員もおり、いざという時に協力してもらえるようお願いしている。緊急の連絡網が整理されている。	○	消防署と連携を図り、火災や地震、水害を想定した定期的な訓練の実施を更に充実していくことにも期待したい。運営推進会議を通して、また日々の近隣の方との関わりから、さらには地域の消防団の協力など、地域との連携を更に深めていくことにも期待したい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士の指導を受けて栄養のバランスに配慮し、職員が半月ごとにメニューを考えている。野菜を中心としたメニューであるが、魚や肉を副食の中心とし、昼には必ず牛乳を提供している。水分もこまめにその方の好きなもの、例えばジュース・コーヒー・サイダーなどを出しており、食事・水分量を細かく記録している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員は、入居者と一緒に掃除を毎日行っており、庭に咲いている花を飾って楽しんでいる。共用空間の居間は天井が高く、そのスペースに近隣の小学生から贈られた「はり絵」を飾ったり、職員手づくりの作品などを飾って季節感を取り入れている。天井の窓を網戸にするなどして、自然換気を行っている。気になる臭いや不快な音などはなかった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には3畳の畳スペースがあり、それ以外はフローリングである。入居者の馴染みのタンスやテレビ・テーブル、家族の写真などを持ち込み居心地よく過ごせるように支援している。ホームでは、タンス・洗面所・ベッド・カーテンを用意している。ベッドではなく布団で休む方もいる。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。